

授業科目名	都市景観と歴史・社会			
単位数	2	授業形態	講義	
担当教員	水田 義一・島津 俊之			
実施日・時間	7月4日(金) 17:30~20:40 (水田 義一)			
	7月5日(土) 9:30~15:00 (水田 義一)			
	7月12日(土) 9:30~12:40 (水田 義一)			
	7月18日(金) 17:30~20:40 (島津 俊之)			
	7月19日(土) 9:30~15:00 (島津 俊之)			
	7月26日(土) 9:30~15:00 (島津 俊之)			
水田担当分	<p>【講義内容】 日本と西ヨーロッパで、どのように都市が形成されてきたのかを、歴史地理学的に考察します。都市は、それにふさわしい機能と景観が備わってはじめて成立します。都市景観は、街路パターン・敷地の形状・建物の3つの要素からなると考えられます。景観要素の変化のプロセスを考えると、建物がかつても変化しやすく、敷地の形状、街路パターンの順に変化しにくくなります。建物は所有者単独の意志で、用途が変えられ、建て替えが行われますが、敷地の形状や街路パターンは隣接住民あるいは道に面した住民全員の合意なしには変更できません。そこで、変化の少ない敷地の形状や街路パターンを中心として、歴史的都市景観の形態分析を行い、都市形成のプロセスや理念について考えます。現在の日本の多くの都市は、計画的に建設された歴史的都市を核に発達してきました。都市の発達を方向付けたのは“都市計画”という考え方です。こうした都市計画の歴史と日本の都市計画法の概要を紹介し、日本の現代都市の形成に果たした都市計画の役割と問題点を考えてゆきます。</p> <p>【テキスト・教材】 テキストは特に指定せず、プリントを配布します。またパワーポイント等も適宜用いて講義を行います。授業の一部として田辺市中心部の見学を行い、歴史的都市の景観の特色を考えます。</p> <p>【事前学習】 とくに必要ありません。</p>			
	島津担当分	<p>【講義内容】 都市の物質的かつ可視的なすがたとしての都市景観は、いうまでもなく人間の創造力と想像力の産物です。しかし都市景観は、いつけん個々の人間がてんでんばらばらに行動して道路やら住宅やらビルやら公園やら鉄道やら駐車場やらを勝手に作り上げた結果の巨大な集合体のように見えながら、じつはそのような個々人の自由気ままな行為の結果として存在するものではありません。なぜならば、都市景観にまつわる個々人の行為は社会的かつ文化的に枠付けられ、一定の社会的・文化的制約のなかでなされるものであるからです。都市景観を形作る自由気ままな行為というのは、所詮その枠の中でしか許されないものであるからです。すなわち、あらゆる都市景観は社会的かつ文化的に枠付けられた存在であり、社会的かつ文化的に産み出されたものなのです。都市景観を含めた空間や場所一般と、それらを形作る社会的・文化的制約や行為との関係を見る学問が、「社会地理学」と呼ばれる学問分野です。この講義では、社会地理学の視点から、都市景観や都市空間が、どのような社会的・文化的制約や規範、あるいは価値観などによって形成されてきたのかを概観してゆきたいと思います。興味ある方々の積極的な受講を期待します。</p> <p>【テキスト・教材】 テキストは特に指定せず、プリントを配布します。またスライドやパワーポイント等も適宜用いて講義を行います。</p> <p>【事前学習】 菊地俊夫・若林芳樹・山根 拓・島津俊之(1995)「人間環境の地理学」開成出版、の第11章「人間環境としての都市」(181-204頁、島津執筆)を、可能なら事前に読んでみてください。前もって島津まで電子メール(shimazu@center.wakayama-u.ac.jp)あるいはFAX(073-457-7457)で連絡下されば、コピーをお送りすることも可能です。</p>		